

もっと知りたい！ みえの現場 すげいやんかトーク

「立神真珠養殖漁業 協同組合女子部」 の皆さん

令和元年9月10日(火)開催
Vol. 4 (通算170回目)

「立神真珠養殖漁業協同組合女子部」は、立神真珠養殖漁業協同組合の女性職員や真珠養殖業に携わる女性たちによって平成24年に結成され、真珠のPR活動や、真珠アクセサリーの製作・販売などを行っています。

真珠養殖漁協の組合の中に女性の視点を生かした組織を作り、漁業者自らが商品の製造、販売、PRまで行うのは全国でも珍しく、その活動内容から、平成29年度に三重県青年・女性漁業者交流大会において知事賞を受賞、全国青年・女性漁業者交流大会において水産庁長官賞を受賞されています。



Q 活動に参加して良かったことや団体の自慢できるところ、真珠の魅力は何ですか？



一番良いことは、仲間がいることです。素晴らしい仲間に出会え、刺激を受けています。自分が作った製品が全国へ旅に出て行くことは、感慨深く、このような経験ができて幸せです。以前はアクセサリーを着けていませんでしたが、真珠のアクセサリーを作っているうちに身に着けるようになりました。真珠の歴史を知ってから、ますます魅力を感じています。

女子部のメンバーの話を聞いて、最初は軽い気持ちで真珠養殖を始めました。わからないことも皆が教えてくれて、巡り会いがすごく大切だと感じました。女子部のメンバーは、育った背景や年齢も違いますが、友達のように話せます。真珠は代々受け継がれていくものなので、そのようなものを自分の手で作れることがとても幸せです。真珠養殖はとても難しく、まだまだ勉強することがたくさんありますが、女子部のメンバーの存在を励みに、これからも頑張りたいです。



チームワークが本当に良く、皆が前向きです。何でも相談に乗ってくれて、仕事でわからないことがあったら一緒に考えたり、落ち込んでいるときでも適切な助言をしてくれるのでありがたいです。イベントに行くと、子どもたちや海外の人と接することが多く、たくさんの人に真珠が愛されていることを実感でき、自分も誇らしい気持ちになります。



団体の自慢できるポイントは、前向きさです。アクシデントやハプニングにあっても、すぐに前を向く人たちがばかりです。真珠の虹色に輝く光沢が大好きで、魅了されています。真珠は誰がつけても似合うし、カジュアルからドレスまですべての服に似合います。



一番の自慢は、チームワークです。役割を決めなくても、皆が自分で考えて、臨機応変に対応してくれます。以前は、製品を作るだけで自分がアクセサリーを身に着けることはありませんでした。アクセサリーを作っている立場なのに、自分自身が着けないのは駄目だろうと思い、今では近所に買い物に行く時でも何か一つは真珠のアクセサリーを着けていくようにしています。



自慢できるところは、前向きな姿勢です。それぞれが前向きなので、課題があっても、皆が前向きな意見を出してくれます。活動を通じて、真珠にまつわる仕事は「人と人のつながり」が大切だと気づきました。一緒に活動していると、女子部の皆が、友達や親戚を大切に生活していることがよくわかり、つながりを大切にしている人が集まっていると思います。自分で考えたアイデアやお客様からのリクエストを実現するために、周囲の人に相談したら、助けてくれる人がいました。教えてもらったり助けてもらったり、真珠はすべての人につながりをもたらすものだと思えます。



真珠が常にそばにある環境で育ったので、全く興味がありませんでしたが、女子部に入って皆と活動する中で、その熱意に刺激を受け、楽しく活動しています。皆といると楽しいので、これからも続けていこうと思っています。アクセサリーを着けるのが大好きなのですが、真珠を着けようと思いませんでした。女子部に入ってから、「真珠を着けてアピールしに行こう！」という気持ちになりました。



活動を始めた当初は、真珠養殖に携わる男性たちから「そんなことしなくていい」という声もありましたが、今では「やってよかった」と言ってくれるようになったことが嬉しいです。真珠は、ゆがんだ真珠から傷だらけの真珠まで、すべて好きです。どんな真珠でも「きれいだな」と感じてもらうことで、その人を幸せにすることができます。



Q 今後やっていきたいことや実現したい目標は何ですか？



子ども向けの体験イベントを充実させたいです。志摩市内だけではなく、三重県内の小学校・中学校でもイベントを行っていきたくです。観光産業と連携し、地域を活性化させたいです。東京オリンピックを控えて、外国人観光客がたくさん日本に来るので、インバウンド向けのサービスを行い、真珠をPRしたいです。自然豊かな環境があってこそ、きれいな真珠ができます。海岸清掃など、英虞湾の環境をもっと良くしていくための活動をしていきたいです。

活動の場を増やしていきたいですが、真珠養殖が忙しい時期には活動できる人数が限られるので、一緒に活動してくれる仲間を増やしていきたいです。

組合全体の問題としては、アコヤガイの稚貝のへい死が起こり、養殖業者全員が頑張っているところです。女子部としては、海外向けの真珠のPR活動をしていきたいと思っているので、県にも協力してもらいたいと思っています。



女子部の皆さんは、志摩市を代表する大営業部隊です。夏休みに東京の霞ヶ関で子ども向けイベントを行うと、抽選になるほど大人気です。子どもへの体験イベントに力を入れているという点で、将来に向けて真珠のマーケットを広げていくという意味でも頑張ってもらっています。皆さんの明るいコミュニケーション能力でこれからも頑張ってもらいたいです。



まとめ

アコヤガイの稚貝のへい死が起こり、大変な状況の中、皆さんがとても明るく前向きで、皆で乗り越えていくぞ、海外にもPRして真珠の良さを伝えていくぞ、という気持ちを聞かせていただき、本当に勇気づけられ、心を打たれました。真珠のPRをしていくためには、生産体制がしっかりしている必要があるため、その支援も含めて、皆さんとともに頑張っていきたいと思っています。皆さんからいただいた元気を、いろいろなところに伝えていきたいと思っています。